

プロフィール

松本 薫（まつもと かおる） ソプラノ歌手

武蔵野音楽大学 声楽学科卒業。二期会オペラスタジオ研究生終了。
二期会会員、東京室内歌劇場会員。イタリア・ドイツに渡り、各地で演奏会に出演するなど研鑽を積む。バロックからオペラ、ドイツ歌曲、宗教曲などのコンサートを開催するほか、声楽指導、合唱指導も行い、近年、日本の童謡、唱歌、歌曲を中心とする演奏会を定期的に開催し、集大成としてのCD「日本の抒情 この道」をリリースする。

大田 朋美（おおた ともみ） ソプラノ歌手

福岡女子短期大学音楽科声楽専攻卒業。ウィーン私立音楽大学声楽科留学、スイス、イタリア、オーストリアにて研鑽を積む。読売日本交響楽団との共演の他、宗教曲ではソリストの経験も豊富。デュッセルドルフ・パリ・マドリードと、大原保人のステージにゲスト出演。文化講座、チャリティー活動、学校での歌唱指導も行い、今回のベルリン訪問を記念して、CD「Priere 祈り」を、リリースする。

大原 保人（おおはら やすと） ピアニスト

3歳よりピアノにむかい、ジョン コルトレーン氏との出会いで、ジャズひとすじ。かつて、日本を代表するビッグバンド「シャープス&フラッツ」に在団する。自己のトリオで、スイス モントルー ジャズフェスティバルに2度出演(1997, 2004)、2011, 日独友好150周年公式セレモニー・記念事業としてのコンサート、2013, 日本スペイン交流400周年記念コンサート等、海外公演の経験も豊富で、近年ヨーロッパにおける活躍が顕著である。一方、日本の歌曲の研究にも力量を発揮している。



「ジャズと日本歌曲の夕べ」 ～日本文化を調べにのせて～

Club CD, Cankarjev dom

2014年7月10日 19:00

主催:

在スロベニア日本国大使館

プログラム -第一部

浜千鳥（はまちどり）（1920年） 松本 薫 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：鹿島鳴秋（かしまめいしゅう）（1891～1954）
作曲：弘田龍太郎（ひろたりゅうたろう）（1892～1952）

鹿島鳴秋は、6歳で両親と生き別れ、孤独な少年時代を過ごす。
28歳の時に、浜辺の小さな鳥に親を思う気持ちを託して作詞。

からたちの花（1925年） 松本 薫 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：北原白秋（きたはらはくしゅう）（1885～1942）
作曲：山田耕柝（やまだこうさく）（1886～1965）

耕柝は、幼い頃、養子に出され活版工場で勤務しながら夜学で学んだ。自伝の中で、
‘工場の中でつらい目にあうと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いた’と述懐している。
耕柝のこの思い出を、親交のあった白秋が詞にしたものである。

荒城の月（こうじょうのつき）（1901年）松本 薫 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：土井晩翠（つちいばんすい）（1871～1952）
作曲：瀧廉太郎（たきれんたろう）（1879～1903）

七五調の歌詞と西洋音楽のメロディーが融合した楽曲。月に照らされ荒れ果てた城を
眺めつつ、栄枯盛衰の感慨にひたり、哀切をおびたメロディーとして完成する。
海外でも多く演奏されている。

Bei Mir Bist Du Schön / 素敵な貴女 大原 保人 (*piano*)

1932年、「Sholom Secunda」作曲。

Summer Time 大原 保人 (*piano*)

「George Gershwin」1935年作曲、オペラ「ポギーとベス」の中で歌われた子守歌。

Autumn Leaves 大原 保人 (*piano*)

Dark Eyes 大原 保人 (*piano*)
ロシア民謡

プログラム -第二部

平城山（ならやま）（1935年） 大田 朋美 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：北見志保子（きたみしほこ）（1885～1955）
作曲：平井康三郎（ひらいこうざぶろう）（1910～2002）

歌人北見が、奈良の磐之媛陵（いわのひめりょう）で詠んだ（1920）連作の一部。
当時、夫の弟子で自分より12歳年下の恋人と引き離されていた時期で、磐之媛が移り
気な夫の仁徳天皇に寄せる恋慕の情に、北見自身のつらい思いを重ね合わせて詠ん
だ、と言われている。平井が、古雅樂的な重厚さと哀切極まりない調として完成。

落葉松（からまつ）（1972年） 大田 朋美 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：野上彰（のがみあきら）（1909～1967）
作曲：小林秀雄（こばやしひでお）（1931～）

軽井沢の自然を愛した野上彰が一人、落葉松林を歩き、寂しさを漂わせながらも気品
があり心に染みとおる8行の誌を書き上げた（1947）。野上の死後、親交のあった小林
秀雄により曲がつけられたのは、作詞後25年も経ってからのことであった。

浜辺の歌（はまべのうた）（1916年） 大田 朋美 (*soprano*) 大原 保人 (*piano*)
作詞：林古溪（はやしこけい）（1875～1947）
作曲：成田為三（なりたたためぞう）（1893～1945）

成田が、当時大学の同窓の女性に恋い焦がれ、この浜辺の歌（歌詞つき楽譜）をラブレターとして送ったが、当の女性からは、「私には心に決めた人がいます。」と、そっくり送り返された、とのこと。

夏の思い出 / Memories of summer 大原 保人 (*piano*), オリジナル

Amazing Grace 大原 保人 (*piano*)

What a Wonderful World 大原 保人 (*piano*)

花（はな）（1900年） 大田 朋美・松本 薫（二重唱） 大原 保人 (*piano*)
作詞：武島羽衣（たけしまはごろも）（1872～1967）
作曲：瀧廉太郎（たきれんたろう）（1879～1903）

組曲「四季」の第一曲として作曲。東京を代表的する隅田川の、桜に彩られた春の情景を歌った曲、合唱曲としても広く親しまれている。